

この通信は、部会の様子をお伝えし、関連する機関のみなさまとの情報共有をめざして発行しています。

地域自立支援協議会・地域移行部会が開催されました！

平成21年度第6回目の地域移行部会を、3月10日に開催しました。区内外から33名の方に参加していただきました。ありがとうございました。

この部会は、毎回テーマを設け、障害者が安心して地域で住み続けるための基盤整備について検討しています。今回もフロア一体となって、積極的に意見交換をしました。



3月10日の主な内容

- ☆『梅ヶ丘跡地で
精神保健福祉施策の夢を語ろう』
- ☆ 情報交換
東京都精神障害者退院促進支援事業
など

東京都精神障害者退院促進支援事業の進捗状況

サポートセンターきぬたとMOT Aが東京都事業を受託してもうすぐ3年目に入ります。広域化をキーワードに、受け入れ先の関係機関と連携を図るため継続したはたらきかけを行ってきています。

地域生活支援センターMOT A

最近の活動状況 (これまで地域移行部会で報告してきた方の近況などについて)

- ・ご本人が自宅に退院されたあと、高齢のご家族だけで頑張っていらっしゃることがあります。ご家族の負担も考えて、公的サービス等を利用しながらご本人の自立に向け支援していきたいと考えていますが、サービスを利用することに対してご家族の不安が大きいこともあります。ご家族の支援も課題だと感じています。
- ・退院後もアフターケアで支援していますが、マンパワーが少ない中で大変さも感じています。
- ・都立中部総合精神保健福祉センターのホステルが廃止となりますが、今後どのような場につないでいけばよいのか探していかななくてはならないと考えています。
- ・そのほか、協力病院との連携状況、MOT Aの最近の活動状況、退院促進支援事業の課題などについて話していただきました。(宮本氏・玉置氏より)



サポートセンターきぬた

最近の活動状況 (これまで地域移行部会で報告してきた方の近況などについて)

- ・病院と連携しながら支援しているなかで、病院職員の人事異動の回転が早いと感じることがあります。担当者が変わることで、それまでの関係性が途切れてしまうという反面、退院促進支援事業に関わっていた職員が他部署に異動したことで、その部署の事業受け入れがスムーズになるというメリットもあると感じています。
- ・1月の東京都地方精神保健福祉審議会で提示された資料によると、平成20年6月30日時点で、1000名以上の世田谷区民の方が都内の精神科病床を有する病院に入院しています。入院している患者さんがまだまだ多いということは発信していかなければならないと考えています。(金川氏より)

3月のテーマは、

「梅ヶ丘跡地で精神保健福祉施策の夢を語ろう」です。



テーマに入る前に…

これまでの地域移行部会の取り組みについて振り返りました。

(健康推進課より)

- 地域移行部会は、毎回テーマを設け、障害者が安心して地域で住み続けるための基盤整備について検討している場です。今回で11回目の開催となりました。
- はじめは、「退院促進等連絡会」として平成20年7月にスタートしましたが、平成21年度より、世田谷区地域自立支援協議会の「部会」として位置づけられました。
- 精神障害に限定せず、他の障害も含めた地域移行について検討を重ねてきていますが、今回は、梅ヶ丘病院の跡地利用を切り口に、これからの精神保健福祉施策について意見交換をしたいと考えています。



意見交換に入る前に…

梅ヶ丘病院の跡地利用について、話題提供していただきました。

(保健医療担当課より)

- 都立梅ヶ丘病院の跡地について、現段階では取得が決定しているわけではありませんが、保健医療福祉サービスの拠点として整備する考えのもと構想を練っているところです。
- これまでのところ精神保健福祉分野の構想は明確になっていませんが、今後検討していく必要があると考えていますので、ご意見を聞かせていただきたいと思います。



テーマにそって、

たくさんのご意見・アイデアなどをいただきました。



<ご家族から>

- 当事者、家族のニーズを主軸として考えてほしいと思います。
- とじこもりの実態は把握されているのでしょうか。夢を語る前に実態を把握しておく必要があると思います。
- 政策をつくるときに、情報の発信や意見の上げ方（誰が誰に対し、どのように）に課題があると思っています。
- 区営住宅、グループホームなど住居を用意してほしいです。家族だけで支えるのではなく地域で支える体制をつくってほしいと思います。
- 通所施設などの場に行ける人はほんの一握りです。行けない人の支援を考えてほしいと思います。
- 家族会で実施したアンケート調査では、「これまでに精神疾患について学ぶ機会がなかった」と回答した方が9割でした。何よりも必要なのは「保健」の機能です。「予防」を重視した取り組みが必要だと思います。

(*前ページからのつづきです)

- 発達障害の子どもを診療できる病院が少ないと感じています。梅ヶ丘病院の機能は、府中病院、大塚病院に移転したということですが、梅ヶ丘病院は日本の小児精神医療の拠点ですので、一部でも機能を残してほしいと思います。東京都には、最低限(入院・リハビリ・外来)の機能を残してほしいとお願いしています。医療難民が出てしまうのではないかと気がかかっています。

<支援者から>

- 病院と地域での生活のギャップが大きいので、その間をつなぐ場として都立中部総合精神保健福祉センターホステルの区版があるとよいと思います。グループホームで生活訓練まで対応することは難しいと感じています。
- 長期入院の方が退院の準備として生活訓練のできる場、具体的な生活の評価ができる場、退院した後でも地域で生活するなかで出てきた課題に対して訓練できる場、ご家族が元気なうちに自立生活の体験や練習ができる場などがあるとよいと思います。
- ショートステイや休息入院など休息できる場があるとよいと思います。
- 遠方の病院から区内の住居を探すのは難しいです。帰れる拠点が必要だと思います。
- アパートの近隣の方などとトラブルがあったとき、ご本人が一時的に避難できる場があるとよいと思います。
- 発想の転換で、今までになかったものを作ってみるというアイデアです。まとまった土地の利点をいかして、畑や牧場など就労につながる場があるとよいと思います。
- 体育館、オープンスペースなど気軽に使える場があるとよいと思います。
- 高齢者で精神疾患がある方の相談窓口があるとよいと思います。病院への受診や治療になかなかつながらない場合の対応などについて相談できる場がほしいです。

<医療機関スタッフから>

- 都立中部総合精神保健福祉センターの担ってきた役割は大きいと思います。入院が長くなると、地域の生活とギャップが大きくなります。国は入院期間を短期化する施策を展開しており、長期入院の場合は経費が削減されてしまう状況です。病院では生活訓練まではできないので、ご本人の状況(入院・通院問わず)に合わせた服薬指導、生活訓練ができ、社会資源へとつなぐ役割があるとよいと思います。
- (ご家族の意見のように)通院中の方で、病院以外の資源はほとんど利用していないという方も多く感じています。多職種がチームとなり、アウトリーチ型の支援体制が必要だと思います。
- 学校での教育が必要だと思います。発症前の青年期段階で予防、教育できる場があるとよいと思います。
- 区民限定、都民限定ではないものがあるとよいと思います。住所地問題が障壁となり、サービスが利用できないことがありました。誰でも使える場所があるとよいと思います。
- 薬についての質問や相談が多くあります。ご本人やご家族に分かりやすい言葉で情報発信ができるとよいと思います。
- 入院するほどではないが、体調が不安定なときにケアできる場があるとよいと思います。
- 単身生活が体験できる場がほしいです。マンスリーマンションを利用するご家族もいらっしゃる、その場合は家族への経済的な負担も大きくなっています。

<最後に>

- 今回は、意見をまとめるまでには至りませんでしたが、いただいたご意見やアイデアは地域自立支援協議会(本会)で伝えていきたいと思っています。
- 今回テーマとして取り上げた“これからの精神保健福祉政策について”は、1回で結論ができるのではなく、今後も検討していきたいと考えています。

(*次ページへつづきます)

～今回いただいたご意見・アイデアから、

まとめとして～ (健康推進課長より)



- 梅ヶ丘病院跡地の利用について貴重なご意見をいただきました。
- 精神保健の主管課長として、ご本人、ご家族の視点を忘れてはいけないという前提を持ちつつ、退院後も医療を継続できる支援、住居を確保し住み続けるための支援、就労支援、レクやスポーツなども楽しみながら充実した生活ができるような支援、家族がレスパイトできる支援などが必要だと考えています。
- 今回、地域移行部会でいただいたご意見は、本会である地域自立支援協議会の中で、区の意見として提言していきたいと思っています。
- 現在の「ホケン」は、「医療保険」の一部として捉えられている現状があります。「保健」の仕組み、制度は構築されていません。重症化を防ぐためには、早期支援・家族支援を進めていかなくてはならないと思っています。憲法25条の生存権とともに、13条の幸福を追求する権利として、「保健」を社会制度としていかなくてはならないと考えています。

世田谷区セーフティネット支援対策退院促進事業の進捗状況

障害者支援情報センター HASIC

最近の活動状況 (これまで地域移行部会で報告してきた方の近況などについて)

- ・自宅から病院までの道順がなかなか覚えられないので、カメラを持参して道順を覚える練習をしている方がいらっしゃいます。これまでは曲がり角が分からず直進していた場で、画像を確認しながら曲がることができました。
- ・就職を機に連絡が取れず心配していた方がいらっしゃいますが、最近訪問してご本人とお会いすることができ、状況を確認することができました。
- ・様々の事情を抱えた方が対象となっており、支援内容、範囲が幅広いと感じます。
- ・退院促進支援事業では、単に退院できればよいのではなく、地域生活でどのようにつながりを作っていくのが大切になると考えています。(進藤氏)

今後の開催予定

- 7月21日(水) 午後2時～ セミナールームB
- 9月15日(水) 午後2時～ セミナールームA
- 11月17日(水) 午後2時～ ワークショップB
- 1月26日(水) 午後2時～ セミナールームAB
- 3月16日(水) 午後2時～ セミナールームA

いずれの会場も
キャロットタワー内
(三軒茶屋)です

* 関係機関のみなさまには、各回とも開催前に“開催のお知らせ”をお送りしています。送付のご希望がありましたら、下記担当までご連絡ください。

～一次回以降も引き続き、みなさまのご参加をお待ちしています～

